

## 要約

### 序論

第2次世界大戦での敗北から習い、日本は低迷より復旧する為に、物理的の力だけに頼るのではなく、彼等が持っている高度知識と賸を復旧の基本資本として使っている。現在、日本は先進の技術に有名で、世界の先進な国の一つである。

高度技術は日本社会の環境を大事にする彼らの先祖の文化にのっっている。しかし、技術があることは時代の発展による環境破壊が発生してしまう為、環境破壊に落ち始めた人々を批判する文化作品が出てくる。その一つが「銀色の髪のアギト」という映画である。この作品にて、作家は現在の環境にて何が起きているのかについて反省する様、視聴者に訴えている。

### 本論

日本社会の文化は社会に幸運若しくは悪運を齎すことができると信じられる神々と先祖の聖霊を重視にする神道の教えから離れていない。その後、日本に仏教の教えが出てくることも非常に、良い結果を生み、呪いに掛からない様、環境を尊敬することが大事である考えを強めた。日本の

国は自然について特別な認識を持っている。元々、日本語では「NATURE」ということば無かった。これは「NATURE」は自分で出来ており、人工という反対語を持っていない。その為、日本人は 19 世紀にて中国から自然という意味があることばを借りた。

この論文を作成するに当たって、筆者は記述解析の方式及び道徳的アプローチを使っている。使われている記述解析方式は次の段階にて実施される：社会にある実際の意味と「銀色の髪のアギト」の映画に含まれる意味を調査し、述べ、評価し、比較する。一方、道徳は社会に出来ている規定の全ての根源である。道徳は規定、規範及び礼儀と強い関係をもっている。従って、ある文学の作品の道徳のアプローチはある作品の道徳の批判に基づくアプローチであり、視聴者があるべきの生活の規範、礼儀と概念を理解する人間になる様、視聴者に生活の善悪からある教えをもらわせるアプローチである。

杉山慶一 (2005 年)に監督されたその空想科学映画の物語では、350 年後にて、日本には神道と仏教の教えがなくなると語られた。先進し過ぎた技術は人間に災いを生み出してしまった。遺伝子操作の過ちにより、森は暴れてしまい、人間を襲い始め、人間のほとんどの人口を乱してしまった。これによって、残りの人間は森の力に従うことになり、新たなる力が生まれた。人間は生活の為の純粹の水を取る許可を得る為、森の支配者である新たなる力に頼む必要があるシーンを見て、筆者がその新たなる

力が神道の教えの間接的の表現であると考え。その森の支配者は「ベールイ」と「ゼールイ」である。

この映画の主人公は「アギト」である。アギトはベールイとゼールイにより特別な力を与えられ、髪が銀色になり、非常に強くなった選ばれし人間の一人である「アガシ」の息子である。しかし、その特別な力は過剰の為、アガシのほとんどの体は樹木に変わってしまった。「トゥーラ」はこの映画の女主人公であり、アギトに会う為に、ベールイとゼールイの覚醒の時に、自分を眠らせた機械に逃げ込んだものである。かつて、トゥーラはベールイとゼールイを破壊する目的がある大量破壊兵器の鍵を持っている。そのことを気づいたベールイとゼールイが不安になり、アギトがいる町の水の在庫を乾燥させてしまった。その大量破壊兵器は「イストーク」と名づけられた。

「銀色の髪のアギト」の映画では、技術を重視する民族も存在し、彼等は自分達をラグナ民族として表す。人間が世界を支配する種族に戻る希望を持ち、森を最大に利用する為に、ラグナは武力を使い森を攻撃した。トゥーラが長い眠りから目覚めたことを見て、イストークを起動し、森を支配することができる様、ラグナはトゥーラにラグナを支援する様に説得した。ついに、トゥーラはラグナの仲間になってしまった。トゥーラがイストークを使わない様と説得したいというアギトの依頼は森に承認され、アギトに銀色の髪を持ち、強くなる為の特別な力を与えた。

## 結論

この映画に反映されたものを見て、筆者は次の結論を取った。自然と技術は決して敵対関係にあるのではない。問題になるものは人間そのものである。人間は技術を使い、自然を過剰に利用しており、環境破壊を起こした。実際、人間は自然と知識の豊かさを賢明に管理された状態で利用することにより賢くなることができるはずである。

## DAFTAR ISI

<b>HALAMAN JUDUL</b> .....	i
<b>HALAMAN PENGESAHAN</b> .....	ii
<b>HALAMAN PERNYATAAN ORISINILITAS</b> .....	iii
<b>PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI</b> .....	iv
<b>KATA PENGANTAR</b> .....	v
<b>DAFTAR ISI</b> .....	vi
<b>DAFTAR GAMBAR</b> .....	viii
<b>BAB I PENDAHULUAN</b> .....	1
1.1. Latar Belakang Penelitian .....	1
1.2. Pembatasan Masalah .....	4
1.3. Tujuan Penelitian .....	4
1.4. Metode dan Pendekatan Penelitian .....	5
1.5. Organisasi Penulisan .....	8
<b>BAB II KERANGKA TEORI</b> .....	9
2.1. Alam Bagi Masyarakat Jepang .....	9
2.1.1. Hutan .....	16
2.1.2. Gunung .....	19
2.1.3. <i>KAMI</i> .....	21
2.2. Teknologi Bagi Masyarakat Jepang .....	25
<b>BAB III ALAM DAN TEKNOLOGI DALAM 銀-色の髪のアギト</b> .....	29
3.1. Alam dan Hutan Dalam 銀-色の髪のアギト .....	29
3.2. Alam dan Gunung Dalam 銀-色の髪のアギト .....	36
3.3. Alam dan <i>KAMI</i> Dalam 銀-色の髪のアギト .....	39
3.4. Alam dan Teknologi Dalam 銀-色の髪のアギト .....	43
<b>BAB IV SIMPULAN</b> .....	54
<b>DAFTAR PUSTAKA</b> .....	57
<b>SINOPSIS</b> .....	ix
<b>RIWAYAT HIDUP PENULIS</b> .....	x

## DAFTAR GAMBAR

Gambar 3.1 Penyerangan hutan dari pusat proyek penghutan Bumi di Bulan ke Bumi .....	32
Gambar 3.2 Agashi, ayah dari Agito yang berubah wujud menjadi pohon .....	36
Gambar 3.3 Lahan tandus yang luas, dan secara geografis tidak mungkin terdapat di Jepang .....	37
Gambar 3.4 Istoc, gunung berapi yang dijadikan senjata untuk menghancurkan kekuatan Hutan.....	38
Gambar 3.5 Druid, makhluk setengah manusia yang menjadi mata- mata bagi hutan .....	39
Gambar 3.6 Druid, mengawasi kegiatan manusia di perbatasan hutan.....	40
Gambar 3.7 Inti hutan, penguasa hutan, ベーレイ dan ゼーレイ .....	42
Gambar 3.8 Raban milik Toola.....	50
Gambar 3.9 Perbatasan antara Ragana dan Hutan yang dipisahkan Neutral City.....	53